平成３０年度当初予算案の概要

資料１

**【1】　編　成　方　針**

府財政は、景気の緩やかな回復を背景に、府税収入が堅調に推移する一方、義務的に負担する社会保障関係経費が増加し続けており、今後も多額の財源不足を生じる見込みであるなど、引き続き厳しい状況にあります。

そこで、今回の予算編成においては、引き続き財政規律を堅持しつつ、「府政運営の基本方針2018」を踏まえ「豊かな大阪」を実現していくため、大阪の成長を促し、府民の安全・安心を確保する施策に、限られた財源を重点的に配分しました。

**【2】　予　算　規　模**

単位：億円、％

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 区分 | ２９年度当初 | ３０年度当初 | 増減額 | 前年度比 |
| 一般会計（調整前） | 26,393（30,866） | 25,543 | ▲ 851（▲ 5,323） | 96.8（82.8） |
| 特別会計 | 13,043 | 29,201 | 16,158 | 223.9 |
| 計 | 39,437 | 54,744 | 15,307 | 138.8 |

 (各表においては、端数処理の関係上、合計と内訳が一致しない場合がある。)

　　＊29年度当初の一般会計予算額は、地方消費税清算特別会計の設置（平成30年4月予定）に伴い、関連予算を調整した

後の数値。

○全体の特徴

|  |
| --- |
| * 府税収入は景気の緩やかな回復を背景に実質税収ベースで増加（P7、8）
* 社会保障関係経費（一般財源ベース）は増加するものの、人件費や一般施策経費は減少（P2、4、5）
* その結果、財政調整基金の取崩額は、前年度から減少（P10）
 |
| （一般会計予算規模における増減の主な理由） |
| ・府費負担教職員制度の見直しに伴う指定都市への税源移譲等による税関連歳出の減（▲４３０億円）・中小企業向け制度融資に係る預託金の減（▲２７２億円）・国民健康保険財政安定化基金積立金の減（▲１３８億円） |
| （特別会計予算規模における増減の主な理由） |
| ・国民健康保険特別会計設置による増（＋８，３６８億円）・地方消費税清算特別会計設置による増（＋７，８４８億円） |
| ○一般歳出ベース：１兆９，５１３億円、前年度当初比 ９８．５％、２９０億円の減。（公債費、税関連歳出、基金への積立金を除く歳出合計） |

○義務的支出：１兆７，４１７億円、前年度当初比 ９７．４％、４７０億円の減。

（人件費、公債費、税関連歳出、社会保障関係経費の合計）

・一般会計当初予算の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ２２年度 | ２３年度 | ２４年度 | ２５年度 | ２６年度 | ２７年度 | ２８年度 | ２９年度 | ３０当初 |
| 当初 | 補正後 |
| 歳出総額（調整前）一般歳出 | 30,238（32,555）25,064 | 29,858（32,426）24,697 | 27,746（30,192）23,051 | 26,564（28,948）21,616 | 27,837（30,713）22,484 | 28,361（32,886）22,249 | 28,215（32,772）22,062 | 26,393（30,866）19,803 | 25,709（30,405）19,026 | 25,54319,513 |

＊29年度以前の歳出総額は、地方消費税清算特別会計の設置（平成30年4月予定）に伴い、関連予算を調整した後の数値。

**【3】　一般会計の内訳**

**１　歳　出**

|  |
| --- |
| ○人　件　費：６，９７５億円（前年度当初比 ９９．４％、▲３９億円）給与改定の実施（勤勉手当等）による増加があるものの、退職手当や教職員定数の減少などにより、３９億円の減。 |
| 30年度 | 対前年度比 |
| ・条例定数（一般会計） | 知事部局教育庁（小中高等学校教職員等）公安委員会（警察職員）その他 | 7,25043,37223,292194 | 人人人人 | 0▲32700 | 人人人人 |
| 　計 | 74,108 | 人 | ▲327 | 人 |

・人件費の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ２２決算 | ２３決算 | ２４決算 | ２５決算 | ２６決算 | ２７決算 | ２８決算 | ２９年度 | ３０当初 |
| 当初 | 補正後 |
| 人件費給料等退職手当 | 8,2107,223987 | 8,2377,277960 | 8,2217,1161,105 | 7,8207,025795 | 8,3407,536804 | 8,2357,480755 | 8,2407,514726 | 7,0146,433581 | 6,8826,335547 | 6,9756,428547 |

|  |
| --- |
| ＜参考１＞２９年度の主な給与改定について１　給料表の改定（０．０６％）　　　　　　　　　　【実施時期：平成２９年４月１日】２　勤勉手当を０．１月分引上げ　　　　　　　　　　【実施時期：平成２９年６月期・１２月期】　３　退職手当の改正（調整率の引下げ）　　　　　　　【実施時期：平成３０年１月１日】 |

|  |
| --- |
| ＜参考２＞府費負担教職員制度の見直し１　２９年度から府費負担教職員に係る給与負担事務が指定都市に移譲　２　事務移譲に伴い、国庫負担金にあわせて個人住民税所得割４％のうち２％分を府から指定都市へ税源移譲（２９年度は相当額を指定都市へ交付）し、残りは地方交付税により財源措置 |

|  |
| --- |
| ○公債費：３，１５９億円（前年度当初比 １０１．０％、＋３１億円）２９年度府債発行分の金利の低下により利子負担が減少するものの、最終償還を迎える府債の元金償還の増加などにより、３１億円の増。 |

・公債費、府債残高の推移（一般会計）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ２２決算 | ２３決算 | ２４決算 | ２５決算 | ２６決算 | ２７決算 | ２８決算 | ２９年度 | ３０当初 |
| 当初 | 補正後 |
| 公債費*(参考)府債残高* | 2,873*51,802* | 2,839*53,804* | 2,657*52,491* | 3,261*53,523* | 3,182*54,334* | 3,266*53,797* | 3,141*53,691* | 3,128*54,269* | 3,128*53,908* | 3,159*54,483* |

＊府債残高は、臨時財政対策債等を含む数値。府債残高については、９ページ参照。

|  |  |
| --- | --- |
| ○建設事業費： | １，７２５億円（前年度当初比 １０１．０％、＋１６億円）南海トラフ巨大地震対策や大阪の成長を実現する新たなインフラ整備など、府にとって必要性・緊急性が高い事業について、計画的に整備を推進。 |

|  |  |
| --- | --- |
| ・補助事業費： | １，０３８億円（前年度当初比 １０４．８％、＋４８億円）第二阪和国道の完成に伴う国直轄事業負担金や国基金を活用した介護施設の整備費の減少があるものの、平成29年台風21号による公共土木施設の災害復旧や、府立支援学校の老朽化対策の進捗による増加などにより、　４８億円の増。 |

|  |  |
| --- | --- |
| ・単独事業費： | ６８７億円（前年度当初比 ９５．６％、▲３１億円）府立高校や警察待機宿舎等の建替工事の進捗による増加があるものの、大和川線における受託事業の減少や天満警察署や動物愛護管理センターの整備が完了したことなどにより、３１億円の減。 |

・建設事業費の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ２２決算 | ２３決算 | ２４決算 | ２５決算 | ２６決算 | ２７決算 | ２８決算 | ２９年度 | ３０当初 |
| 当初 | 補正後 |
| 建設事業費補　　助うち国直単　　独 | 2,0649291681,135 | 1,7731,158132615 | 1,520930132590 | 1,492962100530 | 1,68391685767 | 1,56177675785 | 1,617851108766 | 1,70999074719 | 1,7221,02956693 | 1,7251,03854687 |

＊23年度以前は、大阪府営住宅事業特別会計（24年度分離設置）における事業費相当額を含む数値。

|  |  |
| --- | --- |
| ○一般施策経費： | １兆６４２億円（前年度当初比 ９６．４％、▲３９５億円）中小企業向け制度融資預託金や国民健康保険財政の安定化のための基金積立金の減少などにより３９５億円の減。 |

・一般施策経費の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ２２決算 | ２３決算 | ２４決算 | ２５決算 | ２６決算 | ２７決算 | ２８決算 | ２９年度 | ３０当初 |
| 当初 | 補正後 |
| 一般施策経費うち貸付金うち補助金等 | 14,4856,7455,222 | 12,7535,5605,582 | 12,0754,8355,459 | 11,9334,1635,562 | 11,2573,5585,674 | 10,9653,3346,044 | 10,6473,0496,108 | 11,0373,2996,176 | 10,4002,6636,170 | 10,6422,9925,811 |

＊社会保障関係経費の状況については、５ページ参照。

|  |
| --- |
| ≪主なもの≫　　　　　　　　　　　　　　３０当初 |
| ・中小企業向け制度融資預託金・国保・後期高齢者医療関係費・介護給付費負担金・私学関係助成・障がい者自立支援給付費等負担金 | ２，９４５２，０３６　９７４0,８５８0,４６９ | 億円億円億円億円億円 | ・施設型給付費等負担金・児童手当給付費・四医療費助成（府単独）・大阪府流域下水道事業会計繰出金・地域医療介護総合確保基金事業費 | ３３６２１３１９７１６７１３９ | 億円億円億円億円億円 |
|  |
| ≪増減の大きいもの≫　　２９当初→３０当初 |  |
| （補助金等） | （貸付金）・中小企業向け制度融資預託金・住吉母子医療Ｃ(仮称)整備事業費貸付金・大阪圏鉄道網整備費貸付金（その他＊）・国民健康保険特別会計繰出金(※)・箕面北部丘陵整備事業特別会計繰出金・新型インフルエンザ対策費＊物件費、繰出金、投資及び出資金 |  |
| ・国民健康保険財政調整交付金(※)・国民健康保険高額医療費共同事業費負担金(※)・地域支援事業交付金・障がい者自立支援給付費等負担金・後期高齢者医療給付費負担金（積立金）・国民健康保険財政安定化基金積立金・地域医療介護総合確保基金積立金 | ▲５１３▲７８＋４７＋４２＋３５▲１３８▲２３ | 億円億円億円億円億円億円億円 | ▲２７２▲２８▲５＋５７２▲３９▲５ | 億円億円億円億円億円億円 |
|  |

（※）国民健康保険特別会計の設置（平成30年4月予定）に伴い、歳出区分が変更になったもの。

■３０年度当初予算における社会保障関係経費の状況

**＜社会保障関係経費の内訳＞**

* 社会保障関係経費（一般財源ベース）は、前年度当初比で１０２.０％、１０１億円の増。

単位：億円

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 款 | 項 | ２９年度当初 | ３０年度当初 | 増減 |
| 総額 |  | 総額 |  | 総額 |  |
| うち一般財源 | うち一般財源 | うち一般財源 |
| 福祉費 | 社会福祉費 | 1,181(1,137) | 1,034(1,000) | 996(953) | 969(953) | ▲185(▲184) | ▲65(▲46) |
| 障がい者福祉費 | 587(500) | 576(497) | 668(546) | 652(544) | 81 (46) | 76(46) |
| 高齢者福祉費 | 2,284(2,059) | 2,169(2,054) | 2,276(2,148) | 2,219(2,148) | ▲8(88) | 50(93) |
| 児童福祉費 | 1,033(712) | 814(647) | 1,100(774) | 875(704) | 68(63) | 61(58) |
| 生活保護費 | 60(60) | 35(35) | 56(56) | 32(32) | ▲4(▲4) | ▲3(▲3) |
| 健康医療費 | 公衆衛生費 | 574(295) | 289(148) | 469(257) | 265(129) | ▲104(▲38) | ▲24(▲19) |
| 環境衛生費 | 32(0) | ▲0(0) | 28(0) | 0(0) | ▲5(0) | 0(0) |
| 保健所費 | 4(0) | 3(0) | 4(0) | 3(0) | 0(0) | 0(0) |
| 医薬費 | 171(26) | 39(1) | 188(24) | 43(1) | 16(▲2) | 4(▲0) |
| 合　 計 | 5,927(4,789) | **4,959**(4,382) | 5,787(4,758) | **5,060**(4,511) | ▲140(▲31) | **101**(129) |

（　）内は、法令等によって支出が義務付けられている義務的経費の額。

**＜地方消費税増収分と社会保障関係経費＞**

* 地方消費税率引上げによる増収額（６７５億円）は、全額を社会保障関係経費（５,０６０億円）の財源
として活用。

単位：億円

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | ２９年度当初 | ３０年度当初 | 増減 |
| 【歳入】　地方消費税の税率引上げによる増収額（市町村への交付金を除く） | 678 | **675** | ▲2 |
| 【歳出】　社会保障関係経費（一般財源ベース） | 4,959 | **5,060** | 101 |

＊社会保障関係経費は、福祉費（教育費の施設型給付費等負担金は児童福祉費に含む。災害救助費を除く。）
及び健康医療費から、職員人件費を除いた数値。

|  |
| --- |
| ○減債基金への積立て：２７１億円（前年度当初比 ９９．３％、▲２億円）＊財政再建団体転落回避のため、１３～１９年度の間に、減債基金から合計５，２０２億円の借入れを実施したため、減債基金残高が積立てておくべき額に比して不足。＊２１年度より、減債基金残高の復元を計画的に実施。３６年度までの復元完了をめざし、３０年度は２７１億円を積立て。 |

（参考１）減債基金復元額の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ２１決算 | ２２決算 | ２３決算 | ２４決算 | ２５決算 | ２６決算 | ２７決算 | ２８決算 |
| 減債基金復元額(うち当初予算)　(決算剰余金1/2相当額)(その他) | 52(52) | 383(228)(155) | 514(385)(129) | 313(260)(53) | 766(320)(61)(385) | 392(280)(112) | 299(280)(19) | 303(276)(27) |
| 復元額累計積立不足額 | 525,150 | 4354,767 | 9494,253 | 1,2623,940 | 2,0283,174 | 2,4202,782 | 2,7192,483 | 3,0222,180 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　 | ２９最終 | ３０当初 |
| 284(273)(11) | 271(271) |
| 3,3061,896 | 3,5771,625 |

（参考２）実質公債費比率算定上の積立必要額との差引の推移　　　　　　　　　　　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ２１決算 | ２２決算 | ２３決算 | ２４決算 | ２５決算 | ２６決算 | ２７決算 | ２８決算 |
|
| 積立必要額上記に対応する基金残高 | 6,3521,418 | 6,8471,665 | 7,6771,865 | 8,7242,817 | 8,5773,535 | 8,6114,125 | 8,2613,861 | 8,0023,699 |
| 差引 | ▲4,934 | ▲5,182 | ▲5,812 | ▲5,907 | ▲5,042 | ▲4,486 | ▲4,400 | ▲4,303 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | ２９最終 | ３０当初 |
| 8,2384,235 | 8,4654,908 |
| ▲4,003 | ▲3,557 |

**２　歳　入**

|  |
| --- |
| ○歳入全体の特徴・実質税収の増加、地方交付税等の減少により、一般財源はほぼ横ばい府税収入は、景気の緩やかな回復を背景に、雇用・所得環境の改善、好調な企業業績の持続が見込まれることなどにより、実質税収が前年度当初比１０３．４％、３７９億円の増。（府費負担教職員制度の見直しに伴う税源移譲の影響などにより、名目の府税収入は、前年度当初比９８．６％、１７６億円の減。）また、臨時財政対策債を含む地方交付税は、前年度当初比９５．７％、１７０億円の減。　・府債発行は増加通常債（※）は減少するものの、減収補塡債や臨時財政対策債の増加により、府債は前年度当初予算比１０４．４％、１２７億円の増。 |

　　　　（※）地方財政法第５条に基づき公共施設又は公用施設の建設事業費等の財源に充当する地方債。

|  |  |
| --- | --- |
| ○府税収入・３０年度見込み　（地方法人特別譲与税含む）・実質税収２７年度 | １兆２，５３４億円　（前年度当初比　　９８．６％　　　　▲１７６億円）１兆３，９８７億円　（前年度当初比　　９９．７％　　　　　▲４９億円）１兆１，５０２億円　（前年度当初比　１０３．４％　　　　＋３７９億円） |
| ＊企業業績が好調に推移していることから、法人二税は増加。一方で、雇用・所得環境等の改善が見込まれるものの、税制改正による地方消費税清算基準の見直しや税源移譲の影響により地方消費税や個人府民税は減少。 |
| 法人二税 | ４，１６８億円 | （前年度当初比 | １０４．５％ | ＋１８１億円） |
| ＊地方法人特別譲与税込みでは、５，６２１億円（前年度当初比 １０５．８％　＋３０９億円） |
| 地方消費税 | ３，２７０億円 | （前年度当初比 | ９８．５％ | ▲４９億円） |
| 個人府民税 | ２，９９４億円 | （前年度当初比 | ８８．７％ | ▲３８１億円） |
| ＊うち均等割・所得割は、２，６９２億円（前年度当初比　　８４．０％　▲５１３億円） |
| 森林環境税 | １２億円 | （前年度当初比 | １００．０％ | ±０億円） |
| 宿泊税 | ８億円 | （前年度当初比 | ７１．２％ | ▲３億円） |

・府税収入の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ２決算 | １９決算 | ２４決算 | ２５決算 | ２６決算 | ２７決算 | ２８決算 | ２９年度 | ３０当初 |
| 当初 | 補正後 |
| 府税収入（調整前）実質税収法人二税 | 14,73113,5107,982 | 13,425(14,260)11,5915,667 | 9,936(10,696)[11,106]9,5752,780[3,950] | 10,442(11,171)[11,857]10,2453,049[4,464] | 11,003(12,021)[12,710]10,9543,292[4,999] | 12,840(14,276)[14,382]11,8583,689[5,231] | 12,992(14,159)[14,290]12,0454,080[5,378] | 12,710(14,199)[14,035]11,1223,987[5,312] | 13,209(14,919)[14,556]11,5824,224[5,572] | 12,534[13,987]11,5024,168[5,621] |

＊29年度以前の府税収入は、地方消費税清算特別会計の設置（平成30年4月予定）に伴い、関連予算を調整した後の数値。

＊実質税収は、（府税＋譲与税＋清算金収入）－（税関連の市町村交付金、清算金支出、還付金等）。

＊[　 ]内は、地方法人特別譲与税を加算した数値。

＊法人二税のピークは、平成元年度（８，３５２億円）。

|  |
| --- |
| ○地方譲与税：１，４８８億円（前年度当初比　１０９．２％、＋１２５億円）・うち地方法人特別譲与税：１，４５２億円 （前年度当初比 １０９．６％、＋１２８億円） |

|  |
| --- |
| （メモ） 地方法人特別譲与税　従来の法人事業税（地方税）の一部を地方法人特別税（国税）として徴収し、各都道府県に人口及び従業者数を基準として譲与（再配分）する制度。地域間の財政力格差の縮小のため、消費税を含む税体系の抜本的改革が行われるまでの間の暫定措置として２０年度に創設。２６年度税制改正では、地方法人特別譲与税は、１／３の規模を法人事業税に復元（制度改正の影響は、　２８年度で通年化）し、２９年度に廃止する予定であったが、消費税率引上げ時期の変更に伴い、２８年度税制改正において、復元及び廃止の時期を平成３１年１０月１日以後に開始する事業年度からに変更された。 |

|  |
| --- |
| ○地方交付税等：３，７４８億円（前年度当初比 ９５．７％、▲１７０億円）法人関係税等の増収により普通交付税の算定の基礎となる基準財政収入額が増加すると見込まれるため、臨時財政対策債を含む地方交付税は、　　１７０億円の減。・地方交付税のみ：２，１２８億円 （前年度当初比 ９１．０％、▲２１０億円） |

・地方交付税の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ２２決算 | ２３決算 | ２４決算 | ２５決算 | ２６決算 | ２７決算 | ２８決算 | ２９年度 | ３０当初 |
| 当初 | 補正後 |
| 地方交付税[臨時財政対策債] | 2,995[3,226] (6,221) | 2,973[2,781] (5,754) | 2,844[2,912] (5,756) | 2,844[3,074] (5,918) | 2,764[2,630] (5,394) | 2,826[1,835] (4,660) | 2,764[1,519] (4,283) | 2,338[1,580] (3,918) | 2,446[1,515] (3,961) | 2,128[1,620] (3,748) |

＊（　）内は、臨時財政対策債を加算した数値。

|  |  |
| --- | --- |
| ○府　債： | ２，９８７億円（前年度当初比 １０４．４％、＋１２７億円）大阪府市共同住吉母子医療センター（仮称）の整備が完了したことによる通常債の減少はあるものの、税・地方交付税の代替として発行する減収補塡債や臨時財政対策債の増加により、府債は１２７億円の増。 |
| ・通常債・減収補塡債・臨時財政対策債・行政改革推進債 | ７２７億円５７０億円１，６２０億円７０億円 | （前年度当初比 　９３．２％（前年度当初比 １３５．７％（前年度当初比 １０２．５％（前年度当初比 　８７．５％ | ▲５３億円）＋１５０億円）＋４０億円）▲１０億円） |

⇒　臨時財政対策債等を除いた府債残高は、１９年度以降減少。全会計の府債残高は臨時財政対策債等の増加の影響により前年度に比べてほぼ横ばい。

・府債発行額の推移　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ２２決算 | ２３決算 | ２４決算 | ２５決算 | ２６決算 | ２７決算 | ２８決算 | ２９年度 | ３０当初 |
| 当初 | 補正後 |
| 一般会計府債発行額 | 4,046 | 3,882 | 3,926 | 3,781 | 3,379 | 2,757 | 2,939 | 2,860 | 2,652 | 2,987 |
| 一般会計府債残高 | 51,802 | 53,804 | 52,491 | 53,523 | 54,334 | 53,797 | 53,691 | 54,269 | 53,908 | 54,483 |
| 全会計残高うち臨財債等残高うちその他残高 | 60,739[22,853][37,886] | 60,378[24,924][35,454] | 62,510[27,415][35,095] | 63,293[29,117][34,176] | 63,751[30,561][33,190] | 62,861[31,323][31,538] | 62,327[31,925][30,403] | 62,327[33,193][29,133] | 61,993[32,842][29,151] | 62,294[33,858][28,436] |

＊臨財債等とは、臨時財政対策債、減税補塡債、減収補塡債及び臨時税収補塡債。

|  |  |
| --- | --- |
| ○その他歳入： | ４，４６８億円（前年度当初比 ８８．４％、▲５８８億円）中小企業向け制度融資預託金の減少による貸付金元利収入の減や財政調整基金繰入金の減などにより、その他歳入は５８８億円の減。 |
| ・貸付金元利収入 | ３，０１９億円 | （前年度当初比 　９１．５％ | ▲２８０億円） |

|  |  |
| --- | --- |
| ○財政調整基金の取崩し | ：３１２億円　（前年度当初比 ５８．７％、▲２２０億円） |
| 社会保障関係経費（一般財源ベース）は増加するものの、実質税収の増加や、人件費や一般施策経費の減少などにより、財政調整基金の取崩しは、２２０億円の減。 |
|  |

・財政調整基金残高の推移　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　単位：億円

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年　度 | ２１ | ２２ | ２３ | ２４ | ２５ | ２６ | ２７ | ２８ | ２９ | ３０ |
| 残　高 | 6(434) | 78(1,256) | 784(1,385) | 711(1,438) | 1,037(1,500) | 1,039(1,612) | 843(1,602) | 544(1,479) | 584（1,430） | 1,117 |

＊上段は当初見込み、下段は28年度までは決算額、29年度は6号補正後見込み。

　（参考）財政調整基金の積立て・取崩しについて

単位：億円

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 取崩額 | 積立額 | 残　高 |
| ◆ | ２９年度当初予算編成 | 532 |  | 584 |
| ◇ | ２８年度決算取崩し（最終513億円⇒決算取崩し150億円） | ▲363 |  | 947 |
| ◇ | ２８年度決算剰余金の1/2編入 |  | 11 | 957 |
| ◆ | ２９年度１号～５号補正 | 13 |  | 944 |
| ◆ | ２９年度６号補正（現計545億円⇒最終60億円） | ▲485 |  | 1,430 |
| □ | ３０年度当初予算編成 | 312 |  | 1,117 |